

わたしは命のパン (48)

わたしが命のパンである。(35)

わたしは天から降<sup>くだ</sup>って来<sup>き</sup>たパン (41)

天から降<sup>くだ</sup>って来<sup>き</sup>た 生きたパンである。(51)

## ヨハネによる福音書 6章 34~59節

### 「キリストを食べる」



わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物……。 (55)

わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、  
わたしもまた いつもその人の内にいる。(56)

わたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。(57)

マルティン・ルター

1483～1546年

元・カトリックの修道士、神学者。

宗教改革の中心人物で、プロテスタント教会誕生のきっかけをつくった。

キリストの愛は、失われた愛である。それは、十分の一しか報われない。

しかし、キリストはそれでもなお、その御業<sup>みわざ</sup>を決してお止め<sup>や</sup>になろうとはされない。

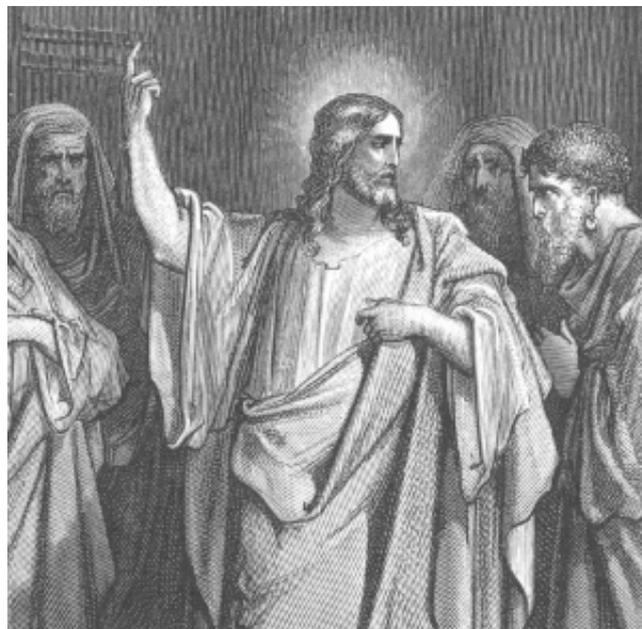
—ルカ 17:11～19 を講解して

(わたしの肉を／わたしを) 食べ (る) (<sup>トゥローゴーン</sup> τρώγων < <sup>トゥローゴ</sup> τρώγω) (54、56、57)  
(動物が餌<sup>えさ</sup>を食べるときのよう) ガツガツ食べ (る)、ムシャムシャ食べ (る)

わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、  
わたしを信じる者は決して渴くことがない。(35)

信じる者は永遠の命を得ている。(47)

つぶやき合うのはやめなさい。(43)



ギュスターヴ・ドレ「シナゴークで説教するイエス」(1870年)

## 阿部 光子

あべ みつこ

1912～2008年

本名・山室 光 (やまむろ みつ)。

作家。「猫柳」で第13回芥川賞候補。

後年、日本基督教団 和泉多摩川教会

(東京都狛江市)の牧師に。

35年余にわたって、牧会に携わっ

た。

幼稚園の先生が「白い花、赤い花、小さい花、色々あるけれど、それぞれ 神様から頂いた花を精いっぱい咲かしているでしょ。お隣りの花を羨<sup>うらや</sup>ましがって 指をくわえていると、良いお花になれませんよ」とおっしゃったのが身に沁<sup>し</sup>みまして、せっかく頂<sup>う</sup>いたいのちを精いっぱい咲かせようと心がけ、自由を得たのでした。

人間は行き詰まるたびに一段階 上げていただくものです。

こんな生活の中で首も括<sup>く</sup>らず、今まで生きてこられたのは聖書のお言葉のおかげです。

父がわたしにお与えになる人は皆……。 (37)

わたしに与えてくださった人を一人も……。 (39)

父が引き寄せてくださらなければ、だれも……。 (44)



作者不詳、15世紀ドイツの木版画

ねえ、教会の人たち、  
教会に来る前に どうして  
足を綺麗<sup>きれい</sup>にしてこないの？

— 洗足<sup>せんそく</sup>の式を見て帰った女の子が  
お父<sup>とう</sup>さんとお母<sup>かあ</sup>さんに

